



孔雀草

事務所便り

令和6年9月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●中国軍機初の領空侵犯、長崎・男女群島沖

防衛省は26日、中国軍の情報収集機「Y9」1機が同日午前11時29分から約2分間、長崎県・男女群島沖の領空を侵犯したため、航空自衛隊の戦闘機が緊急発進(スクランブル)したと発表



した。同省が中国の軍用機による領空侵犯を確認し、公表するのは初めて。日本政府は中国

政府に嚴重に抗議し、再発防止を求めた。

Y9が領空侵犯する前に、空自の戦闘機が緊急発進して、Y9に対し領空に接近しすぎていると通告した。だが、そのまま領空に侵入したため、退去するように警告した。



中国機を巡っては、2012年12月に中国国家海洋局の航空機1機が沖縄県・尖閣諸島の魚釣島近くで領空侵犯した。17年5月にも同島付近で中国海警局の公船の近くを飛行していた小型無人機が領空に侵入した。しかし、軍用機による領空侵犯は初めてだ。また、8月31日0600~0753の間、中国のジュパン級測量船が鹿児島県口永良部島西の領海に侵入した。

最近の日米韓の共同訓練や NATO との交流、日本と東南アジア諸国との防衛協力の動きに対する中国の牽制ともみられている。今後とも中国軍用機による領空、領海侵犯が頻発することが予測されるが、断固とした対応が望まれる。

最近の日米韓の共同訓練や NATO との交流、日本と東南アジア諸国との防衛協力の動きに対する中国の牽制ともみられている。今後とも中国軍用機による領空、領海侵犯が頻発することが予測されるが、断固とした対応が望まれる。

●ロシア西部戦線、長期化か 越境・占領「奪還に数カ月」 24 日でウクライナ侵攻 2 年半

ロシアのウクライナ侵攻開始から 8 月 24 日で 2 年半となる。ウクライナ軍は今年、欧米製兵器も使ってロシア西部クルスク州を越境攻撃し「1200 平方キロ以上」を占領。プーチン政権は同州で来月予定される統一地方選を一部見送っ



た。ロシア軍が押し返すには「数か月かかる」とみられており、新たな戦線の攻防は長期化の様相を呈している。

米大統領選控え ウクラ

イナ軍が地上部隊をロシア本土に進めたのは 8 月 6 日。昨年の反転攻勢は事前に情報が漏れて失敗しており、今回の作戦は「将校は 3 日前、兵士は 1 日前」に知らせる徹底ぶりだった。

支援する西側当局者の間では当初、ゼレンスキー大統領の危険な「賭け」とみる向きが優勢だった。ロシア領が軍事占領されるのは、第 2 次大戦後初とも言われ、プーチン大統領は奪還を厳命。しかし、占領地はむしろ拡大し、結果として 2 週間以上持ちこたえている。電撃作戦の背景には、和平の行方を左右する 11 月の米大統領選前に、先手を打つ思惑が透けて見える。返り咲きを期するトランプ前大統領はウクライナ支援

に後ろ向き。トランプ氏が当選すれば「負け戦」のまま停戦を強いられる恐れがあり、交渉でロシアから譲歩を引き出せる「カード」が必要だった。今回の作戦は「パールハーバー」(真珠湾攻撃)並みの「奇襲攻撃」であり、大成功であった。

一方、見方を変えれば、1945年の原爆投下時のようにプーチンに「核使用の口実」を与えたのではと危惧される。

●パリオリンピックの反省

競泳・組織の弱体化、柔道・作戦の誤り

パリ五輪日本選手団は、国外開催の夏季五輪で史上最多となる20個の金メダルを獲得した。

【写真】カメラマンが捉えた、アスリートの決定的瞬間

メダルラッシュの陰で日本の「お家芸」は苦戦、

メダルなしに終わった1996年のアトランタ大会以来の惨敗を喫したのが競泳だ。メダルは松下周知(東洋大)が男子400メートル個人メドレーで獲得した銀1個のみ。「選手の才能は(どの五輪でも)そんなに変わらない。組織が今のままでは無理という感じ。はっきり言えばリーダーシップの欠如」と言われている。

柔道についても選手・コーチ・組織委員会が一体となって、選手の

強化に当たってきたとは言い難い。4年後のロスアンジェルスオリンピックを目指して組織の再構築、選手の養成・強化に当たってもらいたい。

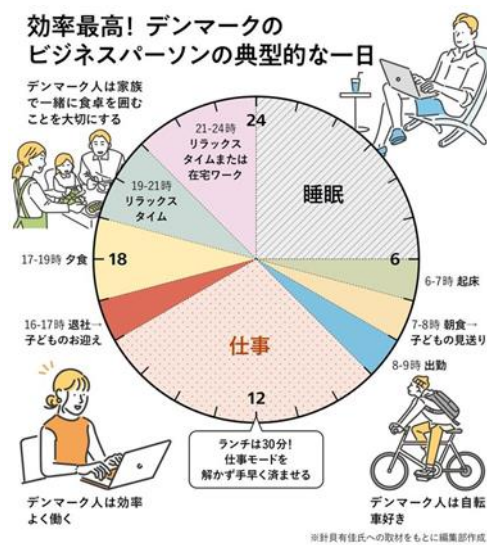
●パリオリンピックの反省点

1. 誤審の頻発
2. SNSによる誹謗中傷
3. 男女を分ける基準
4. 紛争対象国の参加形態

●デンマーク人の働き方

デンマーク人の2022年の一人あたりGDPは6万7744ドルと日本の倍以上(日本は3万4064ドル)。人口590万人と千葉県よりも少ない規模の国が、国際競争力ランキングでは去年まで2連続の1位、今年は首位から陥落したものの世界3位(24年、日本は38位)と存在感を示した。

日本でも知られた企業には玩具のレゴ、ビールのカールスバーグ、[風力発電](#)のベスタス、コンテナ船のマースク、製薬大手のノボルディスクなどがあるが、産業を下支えしているのは従業員50人未満の[中小企業](#)(全企業の98.5%)だ。日本の中小企業は職場環境の改善で大企業の後塵を拝しがちだが、デンマークでは正反対になっているのが興味深い。中小企業こそ「デンマークらしい働き方」を体現しており、社員に優しい職場づくりをリードしている。国際競争力ランキング



は、経済状況、政府の効率性、ビジネスの効率性、インフラという4つのカテゴリの総合評価で決まる。デンマーク

が圧倒的に強いのは「ビジネスの効率性」(5年連続で1位)で、日本が決定的に弱い(51位)のもこのカテゴリだ。日本でも近年は「働き方改革」を契機に、子育てと仕事の両立や男性の家事・育児参画、[ワークライフバランス](#)、境界マネジメントなどが関心を集めている。人生における仕事の位置付けや新しい働き方のスタイルを模索するとき、デンマーク人の仕事ぶりは日本人にも参考になる。